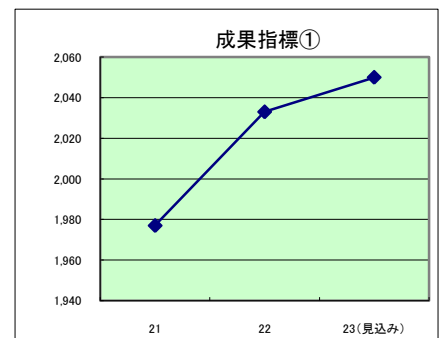
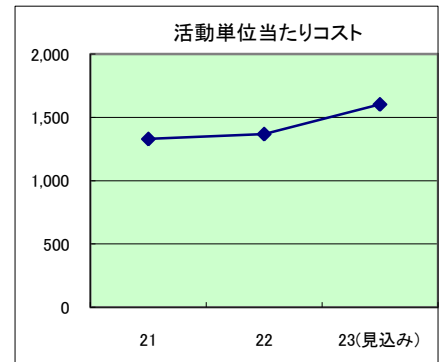


事務事業名	植生南老人憩の家施設管理事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち	款	3	民生費
	施策(節)	3	高齢者福祉	項	1	社会福祉費
	施策の方向	(3)	高齢者の生きがいがづくりの促進	目	5	老人福祉施設費
	関連する計画等	羽曳野市高年いきいき計画		事業	11	植生南老人憩の家施設管理
事業の目的	対象(誰を・何を)		作成部署	保健福祉部福祉支援課		
事業の内容	市内に居住する60歳以上の高齢者		連絡先	072 - 958 - 1111 内線 1213		
	意図(どういう状態にしたいのか)					
	高齢者の健康増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を供与することにより、高齢者の福祉を増進することを目的とする。 高齢者の健康増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を供与するための場の提供を行う。					
根拠法令等	老人福祉法、羽曳野市立老人いきいきの家条例・羽曳野市立老人いきいきの家条例施行規則					
事業開始時期	☒ 昭和 63 年開始 ☐ 平成 ☐ 明確にはわからない	終了年度		平成 年度		
事業開始時からの状況変化	☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている					
市民や議会の要望						
実施手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先	☒ 市外郭団体委託 名称(羽曳野市シルバー人材センター)		委託内容	シルバー：清掃管理 民間：浄化槽維持管理・機械整備		
	☒ 民間委託 ☐ その他					

区 分		21年度	22年度	23年度	
		(実績)	(実績)	(見込み)	
事業費【1】 (千円)		2,329	2,494	2,926	
人件費【2】 (千円)		300	288	360	
職員数	正規職員	0.04 人	0.04 人	0.05 人	
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		2,629	2,782	3,286	
財源内訳	国費 (千円)				
	府費 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (手数料・使用料等) (千円)				
	一般財源 (千円)	2,629	2,782	3,286	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 利用者数		人	1,977	2,033	2,050
②					
③					
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		1,330 円	1,368 円	1,603 円	
市民1人当たりコスト(【A】／人口)		22 円	24 円	28 円	



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成21年度		平成22年度		平成23年度
	①	利用者数 (式)	人	健康、福祉の増進が図られた高齢者数	目標	1,977	2,500	達成率(%)	2,050
					実績	1,977	2,033	81.3%	
	②	(式)			目標			達成率(%)	
					実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	昭和40年4月5日付け社老第88号厚生省社会局長通知「老人憩の家の設置運営について」に基づいて設置された市の施設であり、その管理について市が関与する必要がある。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	地域で気軽に利用できる高齢者交流の場としてのニーズは高い。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☐	☐	☒	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☐	☒	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☒	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	日常的な施設管理についてはシルバー人材センターに委託しており、事業の効率化が図られている。
		受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☐	☒	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	地域の高齢者の交流の場として、様々な活動を通じて参加者の心身の健康の増進に寄与している。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	地域の高齢者からの自主的な参加が得られており、協働性は高い。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	高齢者のいきがいくくり、健康増進のための活動を通じて、地域の介護予防の拠点となっているが、利用者数は前年度よりも僅かではあるが増加している。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	地域の高齢者が誰でも気軽に利用できる施設として、今後も施設管理を市が行う必要がある。活動を通じて、地域の活性化及び高齢者の社会参加を促すことも期待できる。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
	今後も、施設の適正な管理運営に努めるとともに、高齢者の福祉の増進を図っていく。	
行 革 本 部 評 価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☒ 方法改善 ☒ 民営化・民間委託 ☒ 縮小 ☒ 廃止・休止 ☒ 完了	評価理由・意見